

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 5 授業例①

O.Y. 先生

指導計画表

(全11時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら ・プレ活動 ■L5 GET 1 ・文法の導入 ・コミュニケーション活動 ・表現活動
2	■L5 GET 1 ・本文の導入・理解 ・文法の復習
3	■L5 GET 2 ・文法の導入 ・コミュニケーション活動 ・表現活動
4	■L5 GET 2 ・文法の導入 ・コミュニケーション活動 ・表現活動
5	■L5②GET ・本文の導入・理解 ・文法の復習
6	■L5 USE Read ・長文読解
7	■L5 USE Read ・長文読解
8	■L5 USE Mini-project ・スピーチ作り
9	■スピーチ原稿下書き
10	■スピーチ練習 ・個人練習・グループ練習
11	■スピーチ大会

実践例

1. スピーチを意識した指導

2年生のLESSON 5は、不定詞について学習するだけでなく、スピーチの構成について学習できるレッスンでもあります。最後にスピーチ大会をするというビジョンをもって、スピーチ作りを意識した授業展開がポイントになってきます。

2. 授業の流れ

1 時間目

本時の目標は「to 不定詞名詞用法で文が作れる」ことです。まず教科書 p.53 の導入をします。

先生：What is 花火 in English?

生徒：Flower fire?

先生：Good guess! But it's not "flower fire". It's "firework".

firework を導入し、USE Read へ向けた準備をします。firework がでたところで、教科書 p.53 を開き、この課で学ぶことを説明します。LESSON 5 の学習の仕上げとして「My Dream」という題で、スピーチ大会をすることを生徒たちに知らせます。

次に、本時のねらいの不定詞の名詞用法を導入。

先生：What do you do in your free time? I like golf. I play golf. I like to play golf. I want to play golf in my free time. How about you?

生徒：I play tennis.

先生：Oh, you play tennis. You like tennis, right? You like to play tennis. I like to play tennis too. (全体に) ~ likes to play tennis.

「～することが好き」という意味を説明し、理解できたら、ドリル、インタビューゲームなどで「like to」「want to」の定着を図ります。教科書 p.55 の word corner で、次のようなゲームもできます。絵の中から1つなりたい職業を選びます。「Do you want to be a ____?」と相手が選んだ職業を交互に質問して当てるといったものです。

最後に、「I want to be a ____」の文と、その理由をノートに書きます。なりたい職業がないという

生徒も、空想でよいので1つ選ばせます。教師は次のように例を示します。「I want to be an interpreter. I like English. So I want to be an interpreter.」スピーチ作りの第一歩を踏み出します。

2 時間目

簡単なゲームで前回の復習をします。play, watch, eat など6つの動詞を黒板に書きます。生徒は1つNGワードを決めます。「I want to」の後に、黒板に書かれた動詞を続けて文を作り、交互に言っていきます。例えば、「I want to eat yakiniku.」など。相手のNGワードを言ってしまうと負けです。

ウォームアップが終わると p.54 の本文の導入です。ピクチャーカードを見せて、新出単語を導入しながら、「When is the day-at-work program?」

「Where does Emma want to go?」「Where does Ken want to work?」と質問しながら導入します。日本語でも簡単に内容を確認します。

本時のねらいは「本文をスラスラ読み、暗写できる」ことです。音読練習は、チャンク読み、役割読み、虫食い読み、シンクロ読みなど飽きさせないようにいろいろな方法でおこないます。次に1分間読みの目標回数を決めて個人練習。それからペアで役割を決めて暗記するまで音読練習をします。黒板にはキーワードとなる the day-at-work program, a farm, a department store だけ書いておきます。

最後に、暗写に取り組みさせます。まず本文をそのまま写します。次に日本語訳のみを見て本文の暗写。できたら教科書を見て答え合わせをします。

3 時間目

本時の目標は「to 不定詞副詞用法で文が作れる」ことです。形容詞用法の導入は、次時にまわします。導入は身近な話題から入ります。

先生：What did you do last Saturday? I came to school. Why? Because I practiced kendo. I came to school to practice kendo. Did you come to school last Saturday?

生徒：Yes, I did.

先生：Oh, you came to school. Why?

生徒：Because I practiced soccer.

先生：So you came to school to practice soccer. ~ came to school to practice soccer.

上のような例文を示し、副詞用法を使って理由を述べるができることを理解させます。続いてドリルやマッチングゲームなどで楽しくテンポよく定着を図るための練習をします。

自己表現活動では、英語学習について考えさせる文を作らせます。I study English to ____ というのも1つですが、I have to _____ to speak English well.とします。答えとして、learn a lot of English words, talk with people from other countries, go to the USAなどが出てくるでしょう。後日それらの英文をプリントにまとめてフィードバックすれば、学習意欲も高められます。授業のヤマ場は、スピーチに関する文を作ることです。将来の夢のために自分は今何をすべきかを考えさせます。例えば、I will ____ to be a doctor.」というように、____にどのような語句が入るかを考えさせます。この場合は、study hard, read many booksなどが考えられます。これらの文はスピーチのまとめとして使えるでしょう。

4 時間目

本時のねらいは、「形容詞用法で文が作れる」ことです。導入は、いきなりクイズで始めます。

先生：(箱に手を入れながら)This is something to eat. What's this? It's red. It's hard.

生徒：It's an apple.

クイズで例を示した後、形容詞用法について説明し、理解させます。続けてゲームやドリルで練習します。上のような guessing game や1分間に単語を何個分類できるかを競うゲームをします。例えばこんなかんじです。

生徒1：Tea.

生徒2：Something to drink.

生徒1：Book.

生徒2：Something to read.

さらに教科書の Drill や Practice など練習し、定着を図ります。ワークシートで適語補充や語順整

序などの問題に取り組みさせます。問題にスピーチで活用できそうな文章を入れておきます。

5 時間目

前回の復習を短時間でします。例えば、something to eat と言ったら、15秒以内で単語をいくつか言えるかを競うゲーム。

生徒1：Something to eat.

生徒2：Yakiniku, sushi, takoyaki, pizza, ramen...

次に教科書 p.56 の本文の導入。本時の目標は、「教科書をスラスラと読み、暗写できる」です。まず、新出単語を導入します。フラッシュカードとピクチャーカードを使って、文字と音と絵をマッチングさせながら導入します。ピクチャーカードを使って、2時間目と同様に Q&A を入れながら、本文の内容を説明していきます。「Where did Emma visit?」「What did she experience?」「Now she can compare Japanese farming with what?」など。内容を確認したら、音読練習をして暗写までつなげます。

USE Read

USE Read は2時間で行い、読解力強化をめざします。1時間目は、大意をつかむことがねらいです。

教師は生徒たちが初読でどれくらい理解できるかを見ます。プリントで、T or F と Q&A (教科書の In-Reading2) などの問題に取り組みさせます。英語の Q&A が難しい場合は、指導用 CD-ROM に入っている日本語版を使います。答えは、難しければ最初は日本語で答えてもよいことにします。

2時間目は、本文の内容を理解し、スピーチにつなげることがねらいです。最初に日本語訳を読み、

その後久美になったつもりで少し音読練習をします。Post-Reading で、久美のスピーチを要約させて「序論、本論、結論」を意識させたい。本文の中で「ここは使える」と思う文や表現に下線を引かせます。

また、要約文に「自分だったらこう言う」という文を考えさせて、rewrite させて、ペアで発表させます。

USE Mini-project

ここでは、「序論、本論、結論」の型でスピーチ原稿が書けるようになることが目標です。

夢がないという生徒は、空想でよいので考えさせます。なりたい理由を考える時には、キーワードとして like, respect, want を挙げておきます。例えば、「サッカー選手になりたい」のであれば、「サッカーが好き」、「メッシを尊敬している」、「有名になりたい」という理由が考えられます。さらに追加情報を入れて、スピーチを完成させることを意識させます。過去のスピーチ原稿をいくつか見て、よい点悪い点を学びます。

授業の最後にスピーチ大会について説明します。

- ① スピーチの時間は、1人40秒
- ② 声、態度、内容の3つをABCで評価する
- ③ LESSON 5で学習した表現が入っていること
- ④ 工夫して、オリジナリティーがあること

9 時間目

本時の目標は「スピーチ原稿の下書きを仕上げる」ことです。まずスピーチ原稿が「序論、本論、結論」の型になっているか確認します。4人グループでスピーチ原稿を回し読みし、お互いにより点を挙げたり、アドバイスをしたりします。下書きが終わった人は、先生に原稿をチェックしてもらい、練習に入ります。スピーチ原稿の下書きを授業の最後に回収します。原稿は添削し、次回返却します。

10 時間目

添削した原稿を返し、清書させます。清書ができたら、スピーチの練習時間をもうけます。目的は、話し方と聞き方の向上です。スピーチの評価をもう一度確認します。次にイメージトレーニングとしてスピーチのいろんな例をビデオで見せ、良い点と悪い点を考えさせます。教師も良い例と悪い例をわかりやすくやって見せます。同じく聞き方についても例を示して指導します。それから個人練習。ペアまたはグループでも練習し、お互いにアドバイスをします。さらに表現力を鍛える練習メニューとしていくつか場面や条件を与えます。例えば「だれに」であれば、幼稚園児に、お年寄りに、宇宙人に、など。また「モノマネ練習」も楽しいでしょう。政治家の

ように、先生のように、など。ペア練習の後は、また個人練習。教師は slow learner の支援をします。

スピーチ本番

次のような評価用紙を配布します。

年 組 番 氏名 ○○ ○○			
Voice	Attitude	Content	Total
A B C	A B C	A B C	A B C
Comment			

全員が40人分の評価を書きます。聞き手は話し手の良い点を探しながら集中して聞くようにします。教師も生徒の話す力と聞く力が高まるように即時評価をしていきます。全員のスピーチが終わったら評価用紙を列ごとに種類別に回収します。評価用紙を40人分重ねてホッチキスで止めた後、裁断し短冊にして一人ひとりに渡します。生徒は40人分の評価を読みます。温かいコメントを読んで自信や意欲を高めることができるでしょう。スピーチ原稿も集めて、記録をしっかりとし、次の指導につなげます。クラス代表を決め、学年集会でスピーチさせます。

3. 最後に

「My Dream」のスピーチを成功させるポイントは、3つあると思います。1つ目は、良い例を見せること。何事も目標が見えるとがんばれるものです。2つ目は、「型」をおぼえること。スポーツと同じく型をおぼえることが重要です。文型、スピーチの型、など、基本的な型を徹底的に叩き込むことが大切でしょう。3つ目は、内容です。実際には自分の夢についてビジョンをもっている生徒は少ないように感じます。キャリア教育のつもりで取り組む必要があると思います。中1からキャリア教育を積み上げていけば、内容でも英語でも中2らしいスピーチできるのだと思います。生徒たちはいろんな夢を聞くことによって友だちを知り、自分の生き方をさらに考えます。話したい内容、聞きたい内容があるか。それがスピーチ成功の一番のポイントです。

My Dream のスピーチは、中学校英語の最大のヤマ場であり、ぜひ気合いを入れて取り組みたい。